

ニチレクボール

(室内ペタンク)

サークルの中に立って黄色い標的球(ビュット)に向かい、2チームがそれぞれ赤色と青色のボールを投げ合い、より近づけることで得点を競うゲーム。

写真



起源

- ・マルセイユ近郊のラ・シオタという町で、古くから伝わる「プロヴァンサル」が起源。
- ・1910年、元チャンピオンのジュール・ル・ノアールが車椅子生活となり、友人のピティオが、彼のためにルール変更を提唱し、ボールを投げるスタート位置と目標球の距離を短くし、助走も禁止したのが、現在のペタンクの始まり。
- ・日本レクリエーション協会が、屋内で楽しめるように改良を加えたペタンクの派生競技。

人数

- ・基本はトリプルス(3人对3人)：持ちボールは1人につき2個、合計12個。
- ・ダブルス(2人对2人)：持ちボールは1人につき3個、合計12個。
- ・シングルス(1人对1人)：持ちボールは1人につき3~4個、合計6個か8個。
- ※持ちボールを1人につき1個として、最大12人まで一緒にプレーできます。

場所

- ・体育館等。
- ・広さは、幅4m、長さ15m以上が必要。(幅3m、長さ12mに短縮することも可能)

進め方

- ①ジャンケンなどで標的球(ビュット)を投げる権利を決める。
 - ②標的球(ビュット)を投げるチームの先攻でおこなう。標的球はサークルから6~10mに止める。
 - ③先攻チームの第1投球者が標的球(ビュット)の近くにボールを投球する。
 - ④後攻チームは先攻チームより一層近くに寄るまで何回でも投球する。
 - ⑤次に標的球(ビュット)よりボールが遠くなったチームが投球する。これを繰り返し全投球した時点で最も標的球に近いボールのチームがこのセットの勝ちとなる。
 - ⑥一方のチームが6球投げ終わっても勝ったチームに残球があれば、更に得点を稼ぐために投球する。これで1セット終了となる。
 - ⑦投球によりボールを動かしたり、標的球を動かしたりすることで得点することができる。
 - ⑧このセットで勝ったチームが次のセットで標的球をころがし、先攻となりゲームを進める。
 - ⑨ポイントの測定は最後にボールを投げたプレーヤーもしくは同じチームのプレーヤーがおこなう。
- 《投げ方》
- ・手の甲を上にしてボールをつかみ、アンダーハンドスローでボールに逆回転をかけるように投球する。
 - ・投球の際はサークルを踏んだり、ボールが地面に落ちる前に足を上げてはいけない。
 - ・投球順は自由(連続して投球してもよい)

勝敗の決め方

- ・各セットとも、標的球(ビュット)に最も近いボールのチームにだけ得点が入る。負けチームは0点。
- ・負けチームの最も標的球(ビュット)に近いボールよりも、さらにビュットに近い位置にあるボールの個数がそのまま得点となり、各セットの合計で先に13点とったチームが勝ち。(予選などでは、先に11点とったチームが勝ちとする場合もある。)

その他

- ・目で見て、どちらのボールが近いかわからないときは、メジャーで測定する。
- ・標的球(ビュット)の有効範囲は、小学生が4m~8m、中学生は5m~9mとし、一般と区別する。
- ・標的球(ビュット)が移動し、サークルから20m以上、または3m以内になったときは、その標的球(ビュット)は無効となる。
- ・標的球(ビュット)が無効になったとき、両チームとも持ちボールが残っているか、両チームとも持ちボールが残っていないという同じ状態の場合は、セット自体が無効となる。
- ・一方のチームだけに持ちボールが残っているときは、残っている数がセットの得点となる。